

大阪市立吾妻尋常小学校を卒業した田池先生は、大阪府立市岡中学校へと進学しました。当初、その人の資質を知る恩師は、大阪きっての名門校である北野中学への進学を助言していましたが、それを聞いたお父さん、学校へ出かけていき「うちの子は電車で通うような学校へは行かせない」と、旧制市岡中学校への進学が決まったといいます。電車賃を払って通わせるような余裕はなく、それより野球の強い市岡へ行かせたいというのが、お父さんの本音だったようです。

陸軍士官学校へ

そのお父さんが、中学四年の時に亡くなりました。食道ガンを患い、その手術後、肺炎を病んでの最期でした。亡くなる前は、よく咳き込んでいたといいます。学年主任の先生や担任の先生は、何とかその人に勉学を続けさせたいと案じていたのでしょう。「自分が学費を出してやるから進学しろ」とまで言ってくれました。

また、ある企業が、学費を負担するので、市岡中学校からも一名を選ぶよう言っており、それに選ぶうとしたようです。

ところが田池先生、「人に金を出してもらってまで勉強したくない」と両案ともに断ってしまいました。一計を案じた学年主任の先生は、「海軍兵学校」「陸軍予科士官学校」「高等商船学校」へ願書を提出したうえで、受験に行くよう、田池先生に指示したといいます。ここなら授業料もいらず、学業が続けられるとの配慮からでした。

しかし海軍兵学校の入試では、選考試験の最終段階で、「おまえの父親は国賊である」と言われたそうです。お父さんが任侠に生きた人だからでしょうか。その話をした時、お母さんが「悪かった」という顔をされたのが忘れられないといいます。海軍に比べ、陸軍ではこのようなことがなく、あくまで成績重視でした。結果、陸軍予科士官学校と商船学校の二つに合格しました。どちらにするか迷ったといいます。田池先生が言うには、



田池先生 幼少のころ、お父さんと